

## 2018 年度第 1 四半期決算

### プレゼンテーション資料要旨

#### 【スライド 3】

- 3 ページ目をご覧ください。決算の主要ポイントをご説明します。
- 1 点目：実質業務純益は 220 億円となり、24%の進捗率となりました。
  - 業務粗利益は 569 億円、経費は 348 億円となり、ともに通期計画に対する進捗率は 24%と順調な滑り出しとなりました。
  - 経費率は 61.2%となり、前年同期から低下しました。
  - 本業からの収益は順調であると認識しています。
- 2 点目：親会社株主に帰属する四半期純利益は 90 億円、通期計画に対する進捗率は 17%となりました。
  - これは、与信関連費用が前年同期比 18%増の 107 億円となったことによるものです。
  - 第 1 四半期の与信関連費用の詳細は、後ほどスライドでご説明しますが、一時的要因も含まれており、通期計画に対する高い進捗率は概ね想定通りです。
  - 親会社株主帰属する四半期純利益の進捗率 17%の主因は与信関連費用ですが、通期の与信関連費用計画 340 億円、および通期業績予想 520 億円に対して大きな影響はありません。
- 3 点目：レイク ALSA について
  - 第 1 四半期の新規顧客獲得数は 2 万 3 千件、成約率は 28.9%となりました。
  - これは、レイク ALSA の立ち上げに際し、旧バンクレイクとの誤認防止措置やウェブサイト立ち上げに伴う顧客申し込み導線の混乱等により、申込数が減少し顧客スコアも低下したことによるものです。
  - ウェブサイトコンテンツの見直し、広告表現の見直しなど、本来的な「レイク」ブランドの実力発揮に向け、障害を取り除くための各種対策を講じており、今後の回復を見込んでいます。

#### 【スライド 4】

- 4 ページ目は、2018 年度第 1 四半期決算のサマリーです。スライド 3 ページで概ねご説明しましたので、このテーブルは後程ご覧ください。

## 【スライド 5】

- 5 ページ目では、資金利益と非資金利益についてご説明します。
  - 資金利益は 334 億円となり、前年同期比 5%増加しました。
    - ◇ 無担保ローンからの資金利益は前年同期比 4%増加の 175 億円となりました。
  - 非資金利益は 234 億円となり、前年同期比 10%減少しました。
    - ◇ テリバティブ取引関連収益などの法人業務の利益の減少や、プリンシパルトランザクションズ業務での株式関連利益の減少など、市場関連収益の減少によるものです。

## 【スライド 6】

- 6 ページ目では、純資金利鞘についてご説明します。
  - 運用サイドでは、コンシューマーファイナンスの平均残高の増加が寄与し、貸出金の運用利回りが改善したことから総資金運用利回りは 2.74%となり、6 ポイント上昇しました。
  - 調達サイドでは、外貨建運用資産のマチュリティギャップの拡大抑制を企図したカレンシースワップ等による若干のコスト増から、総資金調達利回りは 0.27%となり、1 ポイント上昇しました。
  - その結果、純資金利鞘は 2.47%となり、5 ポイント改善しました。

## 【スライド 7】

- 7 ページ目では、経費についてご説明します。
  - 経費は、物件費、人件費とも前年同期比減少し、348 億円となりました。
  - 経費率は、継続的に改善し、61.2%となりました。

## 【スライド 8】

- 8 ページ目では、与信関連費用についてご説明します。
  - 与信関連費用は、前年同期比 18%増加し、107 億円となりました。
  - 主要ポイントでご説明したように、ストラクチャードファイナンスの与信関連費用増加は、不動産ファイナンスと船舶ファイナンスの海外案件の新規実行に伴い、貸倒引当金を追加繰り入れたことが主因です。
  - アプラスフィナンシャルの与信関連費用率は、営業債権残高の増加に伴う貸倒引当金の繰り入れに加え、延滞債権の一括売却処理に伴って、1.8%へ上昇しましたが、当該要因を除いたベースは 1.2%です。
  - 他方、無担保ローンの与信関連費用率は、残高の減少に伴う与信関連費用減少を主因として、3.6%へ低下しました。

## 【スライド 9】

- 9 ページ目では、自己資本です。
  - 国際統一基準完全施行ベースの普通株式等 Tier1 比率は 12.3%となりました。

## 【スライド 10】

- 10 ページ目では、過払利息返還についてご説明します。
  - 開示請求件数、利息返還実績とも、特定の事務所の広告活動再開により、2018 年 1 - 3 月期から増加しましたが、大きなトレンドとしては引き続き減少しています。
  - グループ全体の利息返還損失引当金は 709 億円で、4.8 年分と、必要十分なレベルと考えております。

## 【スライド 12】

- 12 ページ目では、無担保ローンについてご説明します。
  - 無担保ローン残高は、2017 年 6 月末比 4%増加しました。
  - しかし、2018 年 3 月末比では、レイク ALSA の新規顧客獲得の出遅れが影響し、レイク事業の残高がやや減少しました。
  - 尚、レイク ALSA の残高は、2018 年 6 月末時点で、46 億円でした。
  - 損益では、資金利益の増加と与信関連費用の減少により、与信関連費用加算後の実質業務純益は 46 億円と、前年同期比 171%増加しました。
  - ビジネス計数を見ますと、新規顧客獲得件数が 2 万 3 千件、成約率が 28.9%と、前年同期比低下しました。
    - ◇ 主要ポイントでご説明の通り、レイク ALSA の立ち上げに際し、旧バンクレイクとの誤認防止措置やウェブサイト立ち上げに伴う顧客申し込み導線の混乱等により、申込数の減少と顧客スコアの低下が要因であると分析しており、その改善策として、スムーズな顧客誘導に向けたウェブサイトコンテンツの見直し、広告表現の見直しなどを展開しています。

## 【スライド 13】

- 13 ページ目で、ストラクチャードファイナンスについてご説明します。
  - 残高は、2017 年 6 月末比 7%増加しました。
  - 損益では、不動産ファイナンスや船舶ファイナンスにおける海外案件の新規実行に伴う与信関連費用の増加により、与信関連費用加算後の実質業務純益は減少しました。
  - ビジネス計数を見ますと、プロジェクトファイナンスの新規コミット額は、国内での再生エネルギー案件

により増加しました。

- 不動産ファイナンスの新規実行額は、前年同期には大口案件があった影響もあり、それとの比較では減少しましたが、市況、各案件のリスクターン、ポートフォリオの分散を踏まえ、選別的に取り組んでいます。

以上、2018年度第1四半期決算についてご説明いたしました。